



平成 28 年 11 月 2 日
東京湾再生推進会議モニタリング分科会
九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会
東京湾岸自治体環境保全会議
東京湾再生官民連携フォーラム東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム

東京湾環境一斉調査 結果概要について

平成 28 年度の東京湾環境一斉調査の調査結果概要を取りまとめましたのでお知らせします。
本調査は、多様な主体が協働しモニタリングを実施することにより、国民・流域住民の東京湾再生への関心の醸成を図るほか、東京湾とその関係する河川等の水質環境の把握及び汚濁メカニズムの解明等を目的としています。平成 20 年度から赤潮、青潮及び貧酸素水塊が発生する夏季に、国・自治体・研究機関など多様な主体が協働して、一斉に東京湾及び流域の河川等において水質調査等を実施しており、今年度で第 9 回目の実施となります。本調査は、「環境調査」・「生物調査」・「環境啓発活動等のイベントの実施」の 3 つの形で実施していますが、ここでは環境調査の結果について概要をお知らせします。なお、記載されている数値及び図等は、データの精査を経て今後修正される可能性があります。

「生物調査」及び「環境啓発活動等のイベントの実施」の結果につきましては、平成 29 年 3 月末までに報告書を公表してお知らせする予定です。

記

平成 28 年度東京湾環境一斉調査の環境調査の概要については、次の通りです。

1 調査日

平成 28 年 8 月 3 日（水）を基準日とし、基準日を含む数日間を中心に、海域及び陸域（河川等）において環境調査を実施しました。

2 参加機関（別紙 1 参照）

国や大学、企業等 計 127 機関

3 調査地点（別紙 2 参照）

環境調査地点 海域 212 地点、陸域（河川等） 357 地点 計 569 地点

4 調査項目等

水質調査

【海域】水温、塩分、溶存酸素量（DO）、化学的酸素要求量（COD）、透明度

【陸域（河川等）】水温、化学的酸素要求量（COD）、流量、溶存酸素量（DO）、透視度

5 調査結果（概要）について（別紙3参照）

東京湾の湾央から湾奥一帯では、底層（海底上1m）D0が低い状態（ $D0 < 4 \text{ mg/L}$ ）であり、特に横浜港～川崎港～羽田沿岸～東京港とその対岸の袖ヶ浦・木更津沿岸を結んだ線で囲まれた海域では、極めて低い状態（ $D0 < 2 \text{ mg/L}$ ）が認められました。（図1-3）。

また、河川水のCODについて、COD濃度の低い地点は、下流部と比べて上流部が多かった一方で、COD濃度の高い地点は、下流部だけでなく、上流部や中流部でも認められました（図2）。

6 添付資料

別紙1 平成28年度東京湾環境一斉調査 参加機関一覧

別紙2 平成28年度東京湾環境一斉調査の調査地点

別紙3 平成28年度東京湾環境一斉調査の調査結果図等

別紙4 平成28年度東京湾環境一斉調査の環境調査実施状況写真

7 問い合わせ先

東京湾再生推進会議モニタリング分科会事務局

海上保安庁海洋情報部技術・国際課海洋研究室

渡邊（わたなべ） 03-3595-3604

海上保安庁海洋情報部環境調査課

松坂（まつさか） 03-3595-3604

環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室

中西（なかにし） 03-5521-8319

九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会事務局

横浜市環境創造局環境保全部水・土壌環境課

川村（かわむら）・須崎（すぎき） 045-671-2489

東京湾岸自治体環境保全会議事務局

千葉県環境生活部水質保全課

在原（ありはら）・原（はら） 043-223-3816

東京湾再生官民連携フォーラム

モニタリングの推進プロジェクトチーム

古川（ふるかわ） 03-5157-5235